

2018.12.20

vol.71

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品『女だけの都』



17世紀初頭、フランドル地方のボーム市は、スペインの虚名の統治下ゆえの繁栄を享受していたが、年に一度の祭りを明日に控え、凶暴で名を馳せるスペイン軍来訪の報を聞く。不甲斐ない役人どもは市政の表舞台から姿をくらし難を逃れようと、突然の市長の死をでっち上げた。男はみな服喪し、もてなしは女の役目となり、予想外に穏やかなスペイン兵たちはよろしく歓待され、何の波乱も起こさず、一年の免税措置の恩典まで市に与え去っていく。

監督：ジャック・フェデー

出演：フランソワーズ・ロゼー

ジャン・ミュラー

製作：1935年 フランス モノクロ 114分

『字幕の名工』秘田余四郎とフランス映画	高三 啓輔／著	白水社	778.09
『一秒四文字の決断』セリフから覗くフランス映画	山崎 剛太郎／著	春秋社	778.235
『中条省平の秘かな愉しみ』	中条 省平／著	清流出版	778.04
『映画でみつけた素敵なことば』	岡田 喜一郎／著	佼成出版社	778.04
『女と男の名作シネマ』極上恋愛名画 100	立花 珠樹／著	言視舎	778.04
『ヨーロッパを知る 50 の映画』	狩野 良規／著	国書刊行会	778.23
『あの映画みた？』	井上 荒野／著	新潮社	778.04
『いい映画を見にいこう』	植草 甚一／著	晶文社	778.04
『植草甚一の映画誌』	植草 甚一／著	晶文社	778.04
『デートで初めて行った映画は何ですか？』	柴田 こずえ／取材・文	岩崎書店	778.04
『観なかった映画』	長嶋 有／著	文藝春秋	778.04
『映画のグルメ』	斉田 育秀／著	五曜書房	778.04
『映画を撮りながら考えたこと』	是枝 裕和／著	ミシマ社	778.21

## コラム『女だけの都』

なぜか2018年の今、旬を迎えているかの1935年製作の風刺コメディー K.M.

今回の上映作品は、17世紀のフランドル地方（南オランダと北フランスに当たる）の小都市ボームを舞台に、支配国・スペインの軍隊来訪の報せを聞いた町の住民の混乱を描いた風刺コメディ。いざとなったら立ち上がる女性の逞しさが、ユーモアたっぷりに描かれている作品です。

監督はフランス映画の黄金時代（1930年代～1940年代）を代表するジャック・フェデー。主演はフェデーの奥さんの大女優フランソワーズ・ロゼー。フランス最高のおしどりコンビのベストワンと言われる一作です。あのマルセル・カルネ！が助監督を務め、フランス劇壇の大立者ルイ・ジューヴェが、出番は少ないが極めて重要な従軍司祭の役で出演しています。

見所テンコ盛りの楽しい作品ですが、注目点をいくつか紹介します。

・冒頭からの約30分、17世紀フランドル地方の風景と風俗がフランドル派を代表するブリュゲルの絵画の細部一つ一つが見事にスクリーン上に映像化されていきます。撮影はパリ北郊のオープンセットで行われ、時のルーブル美術館長が、時代考証を監修したということです。

・この風俗描写の過程で、町長ほか町のお偉方、この作品の主人公である町長夫人コルネリアと、その愛娘と恋人のお抱えの青年画家など、登場人物の紹介を兼ねて、男たちが見栄っ張りや呑気である一方、女たちは商売に家事に子育てにと、働き者である点が巧みに描写されていきます。

・年に一度のお祭りの準備で浮き立つ町の平和な日常描写が続く中に、突如騎馬の伝令が駆け込み、スペインのオリバーレス公とその軍隊がやってきて、今夜この町に投宿すると告げます。

・かつてのスペインとの残虐な戦争を思い出して、恐れおののく町のお偉方ががコミカルで面白い。この回想シーンは相当リアルで物凄く、日本公開時、大幅にカットされたいです。

・そして町長たちが考え出したのは、すぐに底が割れそうな愚策“町長死んだふり作戦”。

・そして、コルネリアは呆れ果てながらも、広場に集まった女たちを「天地創造の時から女の方が武装した男より強い」「私たち女だけで素手でこの危機を乗り越えるのよ」と鼓舞する。このスピーチは、トランプ大統領就任翌日に世界各地で起きたウィメンズ・マーチで語られたスピーチと並べてみても、古さを感じさせずに立派！

コルネリアは、主だった女たちに盛装させ、喉が乾いて到着するに違いない遠来の客たちに飲み物を用意し、手筈を整え、「お客さま大歓迎」のアーチを掲げ、スペイン軍懐柔作戦が始まる。気が強いしっかり者のお母さんにしか見えなかったコルネリアが次第に魅力的な大物に見えてきます。

・指揮官のオリバーレス公は紳士的で、市長の家でコルネリアから心のこもった接待を受けて満足し、兵士たちも、女たちの機転と武器のおかげで、行儀こそ良いとはいえませんが、みな基本的には善人として振舞う。が、悪党もいました。“町長死んだふり作戦”の姑息な芝居を見破り、口止め料をせしめるオリバーレス公付随の小人の道化と、その上前をはねる司祭です。ルイ・ジューヴェが演じる司祭は、仕えるオリバーレス公には忠実な顔を見せているようで、悪事の引き際も心得ている本物の悪党のようです。

・楽しいことやニヤっとしたくなるようなことがいろいろあって、大した混乱もなく一夜が明け、スペイン軍は大きな祝儀を残して粛々と出て行き、町に再び活気が訪れる。コルネリアが自分たちの役目は終わったとばかり、町民みなをねぎらい、夫の町長に花を持たせるラストシーンは心憎い。

1935年公開時、地元フランドル地方では、「父たちを臆病者に、母たちをふしだら者に描いた」という上映反対運動が起こったそうです。私には、不穏な空気が充満した時代に作られたウィンウィンの物語として、この作品はトランプ問題や#MeToo問題・ファーウェイ問題で揺れる今こそ、旬を迎えているように思えます。

## 10/18 『マンハッタンの哀愁』の感想

- ・おしゃれな恋の話でしたね。ハッピーエンドでよかった。
- ・モノトーンで落ち着きがあって、曲も合っていてよかったです。
- ・よかった！ ジャズが流れていた！ マル・ウォルドロン！
- ・音楽もよかった。素晴しかったです。
- ・音楽がなかなかよかったです。人間関係の複雑なところを経て、最後にシンプルで終わったところがよかった。ハッピーエンド、なかなかいい映画でした。男女関係の複雑な心の動きが面白かった。
- ・すばらしい内容だった。男女の心の移り気がうまく表現されていた。日本映画もよろしく。
- ・これ「孤独」もまたよしか、だがやはり二人がいい。とてもよかったヨ。合掌。
- ・なぜ見ず知らずの二人で、金を払うのは男ばかりなんだろう？ ← 最初の疑問  
最後は何がなんだか、理解できませんでした。
- ・映画の作りがよかった。昔のニューヨークを知れた!!
- ・モノクロもよいですね。『心の旅路』をお願いします。
- ・不幸な結末でないところがよかったと思います。
- ・楽しい時間が過ぎました。ありがとうございます。
- ・楽しく幸せなひとときをありがとうございました。
- ・よかった！ よかったよ。
- ・昼の部を見ようと、お昼ごはんを早めに切り上げたが、間に合わなかった。夜の部は、夏でも帰りが暗くなってからになってしまう。3:00頃から始まる夕方の部だったらいいのと思う。
- ・映画が始まってしばらくしたら、いきなり席を横どりされ、ぶつぶつ独り言とイビキがうるさくてムカついた（朝の部）。せっかくの映画が台無し。

### 注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。  
また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

### サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリンググループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



### 今後の上映のご案内 (1日3回上映。上映作品は検討中です。)

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 第74回 4月18日(木) | 第77回 8月22日(木)  |
| 第75回 5月16日(木) | 第78回 9月19日(木)  |
| 第76回 6月20日(木) | 第79回 10月17日(木) |



## 第72回上映会のご案内

## 第73回上映会のご案内

### 私の頭の中の消しゴム

A MOMENT TO REMEMBER

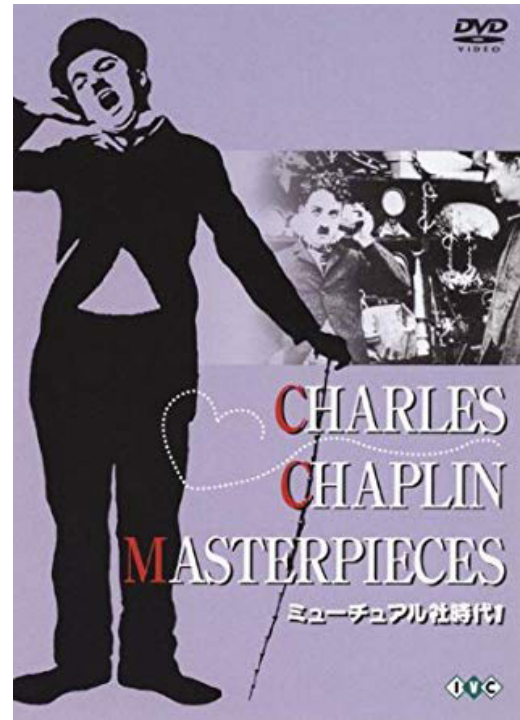
字幕上映



チャップリン

字幕上映

### ミュージュアル社時代 1



**1月17日 (木)**

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

建設会社の社長の娘スジンは妻ある男性と不倫の関係にあったが、ついに破局を迎える。その夜、傷心のまま彷徨っていた街で一人の男性チョルスと出会う。やがて再会した2人は、ほどなく恋に落ち、幸せの中結婚する。甘い新婚生活に浸る2人だったが、いつの間にかスジンの物忘れが度を越したものとなっていく。心配になって医者に診てもらったところ、若年性アルツハイマーという思いもよらぬ診断結果を告げられるのだった。

監督・脚本：イ・ジェハン

撮影：イ・ジュンギユ

出演：チョン・ウソン、ソン・イエジン、  
ペク・チョンハク、パク・サンギユ

製作：2004年 韓国 カラー 117分

**2月21日 (木)**

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

三度移籍した先は、ハリウッド史上空前のギャラで招かれたミュージュアル社。俳優としてのキャラクターを練り上げ、原案・脚色・監督の全権を任されて、完成度の高い驚異の天才芸を発揮する。「チャップリンの替玉」「チャップリンの消防夫」「チャップリンの放浪者」「午前一時」「チャップリンの伯爵」「チャップリンの番頭」の6作品を収録。これらの作品から、後の長編の名場面に結晶してゆく原点が垣間見える。

監督：チャールズ・チャップリン

出演：チャールズ・チャップリン

製作：1916年 アメリカ モノクロ 126分